

Lifelong Learning — 人生70万時間時代 —

輝く自分 生涯学習

私たち一人ひとりが、自分の意思で、生涯にわたって学び続けること、それが『生涯学習』です。大げさなことではありません。自分で自分のために何か一生続けられそうなこと、身近なところからきつとあるはずですよ。

充実してますか あなたの自由時間

人生八十年時代を迎えたい、私たちの一生の「持ち時間」つまり生涯時間は、一年三百六十五日として約七十万時間になります。このうち、成人してからのは時間は五十三万時間ほど。これをデータを基に単純計算すると、

約四〇％にあたる二十三万時間が睡眠や食事などの「生活必需時間」として使われます。また、仕事や家事、育児といった「拘束時間」は約十三万時間、全体の二五％ぐらいを占めています。そうすると残りは約十七万時間。これが趣味や娯楽、休養などにあてることができる成人後の「自由時間」といえます。



時間は、すべての人に平等に与えられた、いわば「個人の資源」です。この資源をどう配分するか——人生七十万時間、成人後の自由時間十七万時間をどう充実させるかは、すなわち人生の充実度を左右するといっても過言ではないと思います。しかし、現実はどうでしょう。私たちは、あまりにも目先の目的を達成することに費やす時間が多いようです。その結果、子供のころは勉強に偏り過ぎる、大人になって仕事に偏り過ぎる、老後に暇があり過ぎる、という「三過ぎる」のライフスタイルがつくりだされています。

人生八十年時代のいま、ゆとりのある、より豊かな生活のためには、子供時代にもっと遊び、地域社会の一員としての役割を果たしたりすること、大人になっても一生継続する学習や活動に取り組むことなどが必要となってきたといえそうです。

自分自身のために 生涯学習

きのう新しかったことが、明日はもう古くなっている——最近、社会の変化のサイクルはどんどん速くなっています。

こんな時代に生きる私たちは、絶えず新しい知識や技術を身につける必要に迫られています。例えば仕事の面でみても、学生



写真・どちらも中央公民館のサークルです。皆さん輝いていますね。

時代の知識や技術だけでは、変化の激しい仕事、新分野の仕事に適応していくのは難しくなってきました。また、高齢化社会という側面も見落とせません。長くなった老後を、張りのあるものにするためには、常に学ぶという気持ちを持たず、社会の変化に取り残されないよう自分自身を育てていかなければなりません。

毎日の生活、とりわけ自由時間をただ漠然と受け身の姿勢で過ごしたとしたら、いざ長い老後に直面したとき、何をしたらいいのかわからずにとまどってしまうかもしれません。いつも生きがいを持って過ごすためには、学習でも趣味でもスポーツ

でも、積極的に取り組んでいく姿勢をもつことが大切です。生涯学習は、自発的な意思さえあれば、だれでも身近なところから始められるものです。例えば公民館などの講座やサークル、テレビなどの教育講座、大学などの公開講座などがあります。すし、もっと身近なところでは、学習の情報源ともいえる本や雑誌の活用が挙げられます。

市は、皆さんがあれをやってみよう、これをやりたいと思いついたときに、すぐに応援できるようないろいろな面で生涯学習推進のための体制を整えています。さあ、あなたもさっそく自分のための自分の学習、みつめてください。